

令和5年度 第2回魚津市総合教育会議 議事録

令和6年2月14日（水）

13:10～14:40

魚津市役所第1会議室

【出席者】市 長 村椿 晃
教育長 山瀬 敬
教育委員 伊東 潤一郎、山浦 春美、片山 さゆり、松本 修治
事務局 企画部長、教育委員会事務局長、教育委員会事務局参事、教育総務課長
生涯学習・スポーツ課長、教育総務課長代理、学校教育係長
企画政策課長、企画係長

【議事】

- (1) 教育のあり方について
- (2) コミュニティスクールについて

【議事録】

事務局 (企画政策課長)	只今から令和5年度第2回魚津市総合教育会議を開会いたします。開会にあたり、魚津市長 村椿晃がご挨拶申し上げます。
市長	本日は、お忙しい中ご参集いただきありがとうございます。 元旦に発生した地震について今までにない揺れと津波ということで、皆が大変な思いをされたことと思う。市内でも住宅の一部崩壊や、道路、港、漁業や民間事業所の設備など、いまだ影響が続いている。市ではこれからもしっかりと対応を進めていきたいと思っている。 元旦ということもあり、家族で市外にいたお子さんが多く、被災地の親戚の元におられることもあったという。幸いにも無事の確認が取れた。安否確認、初動、初期対応の重要性を認識した。 本日は今年度第2回目の会議であり、次第では魚津市の教育のあり方、今後展開予定のコミュニティスクールについてとあるが、幅広く意見をいただき活かしていきたい。
事務局 (企画政策課長)	それでは議事に入ります。ここからの議事の進行は市長をお願いします。
市長	教育のあり方について、コミュニティスクールについて、導入の部分をまずは教育長より説明いただく。
教育長	現在の市の小中学校にとって非常に大きな課題が不登校である。まずはその件について話をさせていただく。

<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の取組として来年度から実施の「魚津っ子元気プラン」を説明 ・「校内すまいる」設置を説明 ・安心感・充実考えられる学校づくり、主体的な学びと元気を生み出す学校づくりについて説明 <p>テーマに関わる部分の状況説明を頂いた。今の件に対して、または違う視点について発言を頂きたい。</p>
<p>伊東委員</p>	<p>不登校の理由に関するデータは取らないのか。理由がわからないでどういった対策を取るのかということ。</p> <p>もう一点、中学卒業後はどうなっているかの後追いはしているのか。卒業後、ある段階で社会に出て一員として活動しているのであれば心配することではないが、確率的に不登校の子供が大人になってからも働かず、家に引きこもっていることが多いと思う。それが一番の問題。そこを見極めたうえで対策を取ることが必要。</p> <p>また、保護者の意識も必要。親が学校へ行かせるという意識。学校へ行かないことを是認していく、どんどん手厚くしていくとそちら側にのみ進んでしまう。</p>
<p>市長</p>	<p>不登校の理由についてはセンシティブな面もあり難しいと考えるが、学校で個々の生徒の理由を把握していることはあるか。</p>
<p>教育委員会参事</p>	<p>小中学校の半数は無気力というカテゴリに入る。コロナ禍にスマホやゲームなどによる生活リズムの乱れ、小学校においては親子関係、中学校では学習面の遅れ等があると推測する。</p> <p>S S W、S Cが家庭訪問する中で関係を作っていくと、親の考えや子供の発達障害などが見えてきて解決の糸口が見えてくる場合がある。孤立している段階で、親も悩み子供も一番悩んでいる。関係機関とつながることで、孤立を解消し、不登校の解決の糸口となる場合があるので、校内すまいるを中継地点とする取組を行っていく。</p>
<p>教育長</p>	<p>委員のご指摘のとおり、不登校理由については文科省が決めたカテゴリのどこかに分類したデータはあるが、個々の細かい不登校となる要素についての分析はされていない。わからないということもある。ある程度原因がわかる中での対策という指摘はそのとおり。ただし難しい。</p>
<p>市長</p>	<p>中学校卒業後の状況を把握したデータはあるか。</p>
<p>教育長</p>	<p>現在は小中学校で終わっている。</p> <p>連携により卒業後も継続的に支援していく必要があると考えている。</p>
<p>伊東委員</p>	<p>会社で体験させるなど、学校だけでなく社会全体が、引きこもりの子ども達を社会に出てきて活躍できるように考えていくことが必要。</p>

山浦委員	<p>14歳の挑戦で受け入れしている企業が不登校児の職業体験の場となるような取組みは出来ないか。不登校児が職業体験をさせてもらい、卒業後そのまま就職へつながった事例がある。学校で教育を受けていなくても社会で居場所があるということがわかればよいのではないか。その場合も学校で学ぶ最低限の学力が土台となることは必ず伝える必要があるが働く楽しさや喜びが体験できることは良いこと。</p>
教育長	<p>不登校の問題は、学校や個人の問題と認識されがちだが、将来的な社会の損失であり社会全体で考えていかないと解決できない。</p>
片山委員	<p>不登校児と関係性を築かないと、学校に行かない本当の理由は言わない。「校内すまいる」にも、なぜ行かない、なぜ行けないのかを明確にしないと、良い場所を作っても来てもらえない。信頼関係が必要。</p> <p>スマホやゲームよりもっと夢中になることがある、大人になり自立するためには今の環境にいてはいけないということに気づかせることが大切。</p> <p>また、不登校になる手前の子供達に対し積極的に関わりを持ち、安心できる場の提供が必要。</p>
市長	<p>予防的という、先生方は色々な変化に気づいていると思うが、家庭なり多様な要素があり、どうアプローチしていくかが難しいということもある。</p>
山浦委員	<p>以前は、不登校は小学校中学年以上から始まっていた。学習の遅れや友人関係が原因。今は低学年から始まっている。学校のことが良くわからないうちから始まっており、家庭が原因の場合があるのではないか。家庭で朝学校に送り出す環境が整っていないということがある。幼少期からの生活環境、生活リズムを作っていくことが重要。</p>
市長	<p>就学前の保育園等との連携は。</p>
参事	<p>就学児健診頃から情報交換し入学前から情報共有を行っている。</p> <p>コロナ禍に人との関わりが苦手な子供が増えてきた。学校では共同の学びなど学校活動の中のグループ学習を推進してきた。少し見直す必要もあるかもしれない。</p>
市長	<p>次に、授業のアップデートについて。意見を頂けますか。</p>
松本委員	<p>子供にとって楽しい学校、行きたい学校であることが一番大事。</p> <p>そのためには安心安全。いじめのない、居場所がある、楽しい、授業がわかる、やりがいがある学校にする努力が必要。些細なトラブルや失敗は必ずある。子供たち同士でどう折り合いをつけるかを学ぶことが大事。</p> <p>また、これからの時代にICTやタブレット端末を使った学習は必須。</p>

市長	学校と地域を何とか近づけていきたいということでコミュニティスクールの取組を行っていく。意見を頂きたい。
伊東委員	児童センター、コミュニティセンターが別々のところにある。一緒にならないのか。取組や業務効率を考えると一緒にあることが普通。センターで活動している高齢者と子供達と一緒に活動したらよい面の方が多い。それが当たり前のようにできない行政システムの方が私たちの目から見たら不自然。センターでの子供達への取組に支援ができれば効率的。
市長	今まで右肩上がりの時代には制度的にできなかった。これからのことを考えると共通の場づくりは本当に考えていくべき。ただし、現実的に子どもの数と高齢者の数のバランスを考えると課題となる。色々な年代、分野の人が集まる施設や場づくりが今後重要と考える。
伊東委員	コミュニティスクールのプログラムを高齢者や中高生に考えてもらおうというシステムも有効だと思う。
山浦委員	この時期にコミュニティスクールを立ち上げることは非常に有効。 小学校統合により学校がない地域が子供達を身近に感じられなくなった。コミュニティスクールにより校区全体の地域が子供達を支えていくことになる。
市長	コミュニティスクールの取組状況は。
教育総務課長	よつば、経田、道下は4月スタート。その他の小中学校区については2学期以降スタート予定。協議会を立ち上げる。
教育長	中学校は小学校が始まってから。小学校も地区で準備が整ったところからとなる予定。いずれも年度内。
市長	その他あるか。
伊東委員	不登校について。シンガポールでは、親は必ず学校に連れて行かなければならない。また、それに対応した学校がある。職業訓練や様々なことが体験できる場となっている。 親育も大事。子供の知りたいという好奇心に応えるのは親の役割。
松本委員	親育は難しい。いろんなケースがあり会合に来てもらいたい家庭の保護者がなかなか忙しく出席していただけない。親学び講座を開いても同様。日々の生活で一生懸命な場合、そういった場に出てくる余裕もないことがある。なかなか難しいところ。子供に関わる余裕がなく働かないと生活できない家庭もある。子供達もそういう状況下ですごく頑張っているが、食事も用意されない、一人でぼーっとしていないといけ

	<p>ないとなればやはり落ち込む。そこをどうするかは、もちろん行政も教育現場も考えているがなかなか改善策がない。</p>
市長	<p>現在は勉強の場の提供、こども食堂等のサポートをし、環境整備が行政の出来るところ。</p>
松本委員	<p>また、不登校の関係で発達障害関係が絡んでくると長引くケースがある。その場合は専門家とつなぎ、対応策を考えていく必要がある。</p>
市長	<p>不登校、コミュニティスクールをテーマに話をいただいているが、ほかに発言あるか。</p>
山浦委員	<p>市内に高校が4校ある。素晴らしいことだと思う。すでに地域にどんどん出ようとしている学校もあるが、子供達と、もっと関わってもらう取組を展開ができればよい。</p>
市長	<p>高校生には積極的に関わっていただいている。今年度は議会傍聴もした。 もっと関わってもらうアプローチをしたい。市内高校生は市の宝であり地域に参加してもらうことを考えていく。北陸能力開発大学校とは、魚津市の高校との連携を積極的にやるのが地域モノづくり人材定着につながるという話をした。大学校では出前授業も再開したいと話をしておられた。</p>
伊東委員	<p>駅で子供達がいるスペースが作れたらよい。</p>
片山委員	<p>コミュニティセンターでも勉強ができる場があればよい。家に近く、家以外で勉強ができる場があればよい。 また、コミュニティセンターを本当に活用するのであれば、学校の日中のプログラムにおいて、コミュニティセンターに行き、活動することで、活用できる場として認識させることが出来る。 また、不登校のデータ分析については、タブレット回答できるようにしたらよい。核心に触れる回答を選択で回答できるようにしたら回答しやすい。 親育については、必死な親も子供のことが大事で、それでもできない親に対してのケア、話を聞いてあげられる、寄り添う支援が必要。</p>
伊東委員	<p>以前は親同士の問題解決があったがその関係が薄れていっている。</p>
市長	<p>本日は不登校、コミュニティスクールを中心に意見交換頂いた。教育面だけでなくまちづくりにも関係する。出来ることもあり、出来ないことについては、これからの取組についての検討に活かしていきたい。</p>

<p>事務局 (企画政策課長)</p>	<p>皆様どうもありがとうございました。 それではこれで本日の会議を終わります。皆さま疲れ様でした。どうもありがとうございます。</p> <p style="text-align: right;">14時40分終了</p>
-------------------------	---